

神戸中部支部

拠点 川崎病院

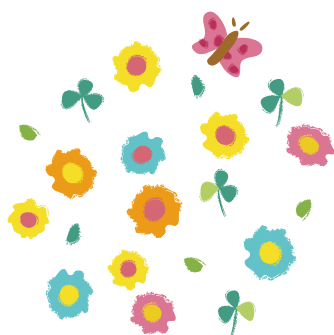
地域の方を対象に糖尿病予防・治療・療養を喚起する啓発運動の推進を目的とした川崎病院主催の「世界糖尿病デー」とのコラボレーションで、「まちの保健室」を開催しました。場所は、川崎病院から10分ほどの距離にある神戸の台所湊川市場に隣接する湊川パークタウンでの開催となりました。市役所等にパンフレットが張られた宣伝効果もあり、開催時刻前から何人も並んでおられる姿も見られるほど大盛況でした。

主催者側の誘導や整理券配布をすることで順番待ちの混乱がなく、また、コロナ禍ではありましたが来場者のご協力もあり、事前に検温チェックやアルコール消毒、感染予防対策を徹底したことでクラスターを起こすことなく、イベントを終了することができました。

「まちの保健室」は、骨密度、血管年齢、体組成計での健康チェックと、その結果をふまえた健康相談を行いました。無料で健康チェックができることに、びっくりされている方や喜んでいる方もおられて、コロナ禍だからこそ、健康チェックは大変ニーズが高いものと感じました。

健康相談を初めて担当したボランティアスタッフからは、「感激した」「また参加したい」という声や、「以前入院していた患者さんがお元気な姿で来られて生活している所を見られて嬉しかった」「あっという間で楽しかった」という声を聞くことができました。コロナ禍という状況でみなさん大変つらい思いをされていますが、このイベントでは笑顔あふれる空間にすることができ、少し癒しになれたのではないかと思います。

これからも、地域のかたの健康を支えるために、ご要望があれば「まちの保健室」出前隊で活動したいと思います。



拠点 JCHO 神戸中央病院 救急の日の催し

毎年9月9日は「救急の日」として、一般市民の方々に救急車の正しい利用方法や応急処置などの知識をPRする日になっています。そこで「救急の日」にちなんで、病院の正面玄関前ロビーにて通院患者さんや付き添いで来院された方を対象に、救急車の適正使用と救急安心センターこうべ「#7119」の利用方法についてお伝えすることを目的に、「まちの保健室」を開催しました。

コロナ禍であったため講義は行わず、掲示物やパンフレットを見ていただき、質問には個別に応じる形で実施しました。お一人お一人に関わる時間は短時間でしたが、175名の方にパンフレットを配布し、「#7119」の利用方法についてお伝えすることができました。「このパンフレット、電話の前に貼っておくね」という声も聞かれ、救急車を呼ぶときに備えて心づもりをしておかなくてはいけないという意識づけになったと思われます。今後も、コロナ禍でも活動できる「まちの保健室」を検討していきたいと思います。



ボランティア の声

久しぶりに地域の方々の声をきくことができ、私自身にとって貴重な時間でした。「まちの保健室」活動は、地域の方の安心感につながったり、健康への取り組みにつながったりと思うので、今後もボランティア活動を続けていきたいと感じました。

出前隊 花浄院北神戸店 健康イベント「イキイキ北区体操」

訪問看護ステーションで訪問看護師として働いており、地域の中で健康増進にかかわりたいと思い、今回初めて「まちの保健室」看護ボランティアに登録し活動しました。

花浄院北神戸店が主催する健康イベント「イキイキ北区体操」のサポートとして、会員のバイタルチェックと健康相談をするブースを立ち上げました。今回の健康イベントが集団で体操をしようという試みであり、参加された会員様はほとんどの方が、自分で自家用車の運転が可能ぐらいの生活レベルで、健康面に関してもかかりつけ医がいて、定期的にチェックしている65歳以上の方々でした。その中でも、摂食は充分だが太れないという男性が数名おられました。時間が限られていたため、その方々の食生活の情報を十分にうかがえませんでした。短時間でもいろんな健康相談に対応できるスキルが持てるように、今後も活動を通して情報を増やしていきたいと思います。

